

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

「わらじ医者の女房」早川ゆきエッセイ

早川一光監修

かんげつ 『寒月』

定価 2,000円＋税

(80ページ フルカラー 上製本)

エッセイ 早川 ゆき
画 神門やすこ

忘れられないあの頃、どうしても伝えておきたいことがある——「わらじ医者の女房」早川ゆきエッセイに『福祉のひろば』の表紙絵でおなじみの神門やすこが一つひとつのエピソードに込められた思いに共感し、描き下ろしの画を添えて、一冊のすてきな絵本が誕生しました！

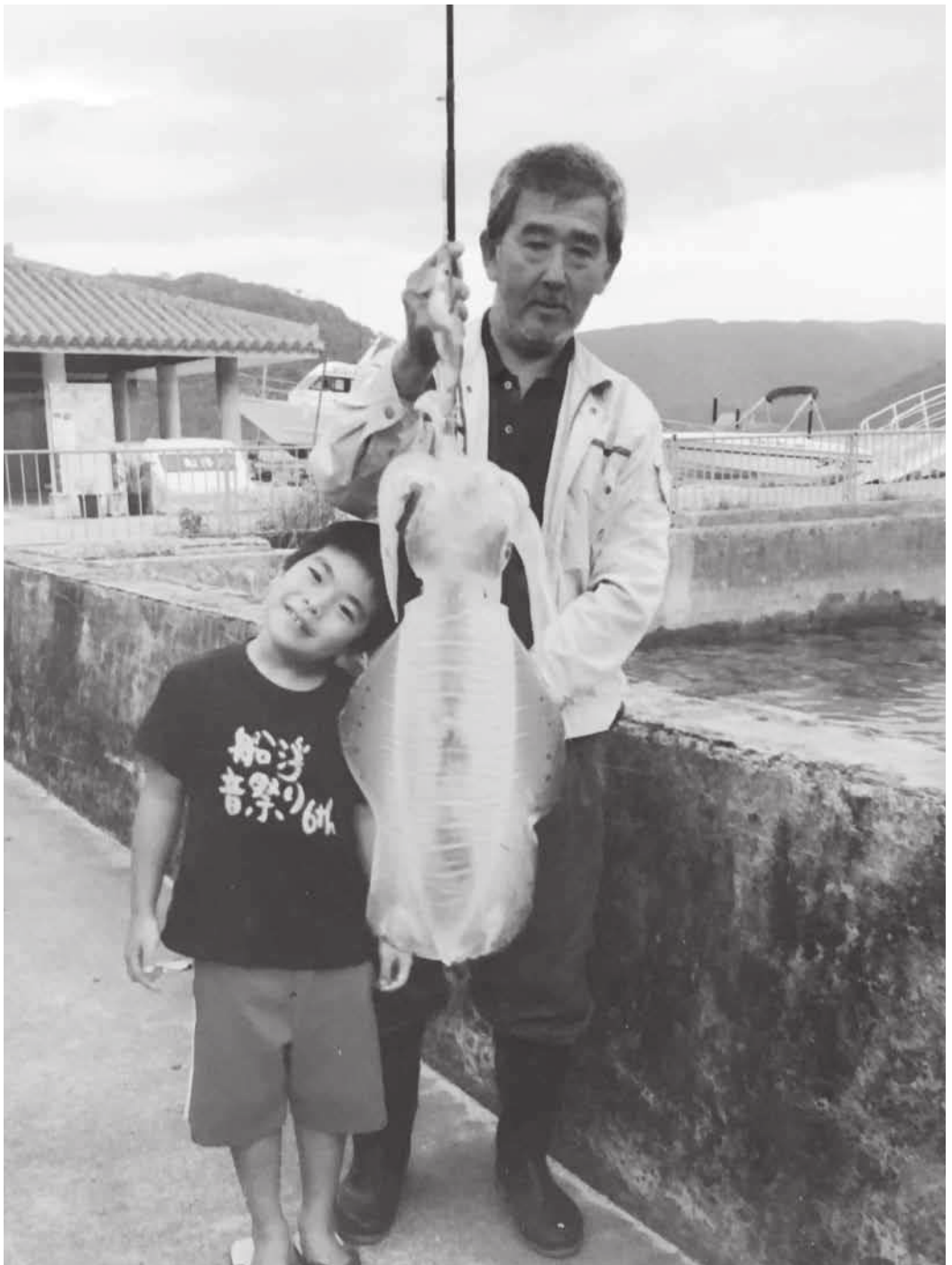


や え やまぐんたけとみちよう
沖縄県八重山郡竹富町

ふなうき いりおもてじま
船浮(西表島)に行ってきました



関西空港から約3時間で新石垣空港。そこから石垣港の離島ターミナルへ。船で西表島^{うえはら}上原港に上陸。日本最西端のバス停・白浜港へ。白浜港からさらに船で約10分、やっと船浮に着きました。



うちばなりじま

あみとり

船浮湾に浮かぶ内離島の炭鉱跡、網取湾などのガイドをしていただいた井上吉晴さん（民宿かまどま荘主人）と、一人息子の晴海さん（現在、小学校6年生）がまだ小さい時の写真です。港では大きなアオリイカを釣ることができます。



観光業とは別に、集落では黒真珠の養殖がおこなわれています。黒蝶貝に真珠のもとになる核くろちょうがいを入れ、13cmほどに育つと、石垣島の川平湾かひらに移されます。視察団の見学を受け入れていただきました。



1971年7月14日全員離村。その石碑には、「三百有余年の歩みを残した。……政治の貧困による経済の行きつまりと医療、教育の不備を始めとする孤島苦がつのり……」と網取村の離村理由が刻まれていました。(右手前がガイドの井上さん)

(写真・コメント：下野祇園)

●特集● 福祉に出会って、福祉に向き合って

転職から5年、なかまが自分らしく生きている姿に勇気づけられて

山田 浩之 10

保育士2年目の私が思う仕事の楽しさ

佐々木沙知 12

一人ひとりの人生の一ページを共に過ごす

松本 政和 14

子どもや家庭を中心においた支援を

前田ちひろ 16

4月に新しく職場に来られる方へ

宮本 茂 18

結婚・出産、3人の子育てをしながらこれからも

印藤 美歩 20

子どもと家族の最善のため関係機関の連携を

小川 英明 22

福祉現場だからこそ「人との出会いとつながり」

乙須 直子 24

互いに成長し合っていく職員集団や職場風土が福祉現場の強み

阿部 勇 26

仕事を通して発達し、人として成長を続けるのは誰も同じ

松浦 朱美 28

10名の手記を読んで改めて感じた問い

鴻上 圭太 30

●トピックス●

厚労省・統計不正問題の本質

唐鎌 直義 32

ひまわり号を走らせて！

泉本 徳秀 36

ふなうき
船浮集落視察の旅

黒田 孝彦 40

デンマーク海外視察〈報告〉 社会福祉法人大阪福祉事業財団 50

福祉のひろば・総合社会福祉研究所の当面の取り組み 56

●連載●

社会福祉研究に人生あり！

貧困、家族への愛、そして理論へ

相澤 與一 60

相談室の窓から

ひとりで悩まないで（その3）

青木 道忠 64

育つ風景 育児情報のあり方を問う

清水 玲子 66

ひととしてあたりまえに生きたい

ろうあ運動と歯科技工所の独立開業

清田 廣 68

映画案内 『15時17分、パリ行き』

吉村 英夫 70

現代の貧困を訪ねて

公営住宅に保証人は必要なのか

生田 武志 72

似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート

多人数を描くのじゃ〜！

ラッキー植松 74

ホームレスから日本をみれば

ありむら潜 76

花咲け！ 男やもめ

川口モトコ 77

●表紙の絵●
神門やす子

みんなのポスト 58 / 福祉の動き 78 / 今月の本棚 81/

●グラビア● やえやまぐんたけとみちょうふなうき いりおもてじま
沖縄県八重山郡竹富町船浮（西表島）に行ってきました

未来をつくる

ながとも
津市立三重短期大学教授 長友

まさてる
薫輝さん

私はとても不器用で、簡単なプラモデルすら一度も自分の力でつくった経験がありません。学生時代の図工や技術家庭の授業では、クラスメイトや先生が私の「作品」をつくってくれました。

ものづくりは今も苦手ですが、まちづくりや人とのつながりをつくる楽しさ、おもしろさがあることを、社会福祉学が教えてくれました。

社会福祉学のエッセンスを三つ挙げるとすれば、「ないものをつくる」「あるものをつなげる」「社会を変える」です。

今では考えられないぐらい施設や事業所がない状態から、各地域で人がつながって、保育所や共同作業所などがつくられてきました。学生時代には、そのようにして社会福祉をつくってきた方々の話を現場でたくさん聞き、つくっていくことに共感を覚えました。



ながとも まさてる

1975年宮崎県生まれ。大阪市にて育つ。2004年、龍谷大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士後期課程単位取得、同年から津市立三重短期大学専任講師、助教授、准教授を経て2013年から教授。社会福祉士。三重県社会福祉審議会委員、三重県行政不服審査会委員、日本医療福祉政策学会副会長などを務めている。

この春から社会福祉の現場で働くことになるみなさんには、そうした社会福祉のいわばダイナミックな歴史を知ってもらえたらと思っています。すでに現場で長年の経験がある方々には、つくってきた歴史を、そして未来をつくる感動を語ってほしいと思います。

同時に、できれば新たな喜びを得る場面を、新たに働くことになった人々とともに、共同でつくることにチャレンジしていきたいところです。大きなことではなく、少し手を伸ばせば実現可能な範囲が最適かと思っています。

みなさんの近くに必ず、新たにつくるチャンスと社会を変えるきっかけが転がっています。



特集

あなたに つたえたい

なかま

福祉に出会って、

なかま

福祉に向き合って

「わかものは 浮かれていない」(二〇一五年)

「あたらしく社会福祉現場に向き合う 若ものたちへの応援歌」(二〇一六年)

「福祉現場に春風がやってくる」(二〇一七年)

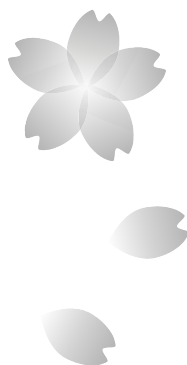
「福祉現場に春風がまいおりた」(二〇一八年)

……これまで『福祉のひろば』四月号で特集してきました。

新年度に福祉現場でスタートされる職員のみなさん、この四月から施設や事業所を利用されるみなさん。新年度事業へと決意新たにされていることだと思います。多くの福祉現場では新卒者を迎えることは無縁の所が多いのが現実です。他の業種から福祉の世界に踏み込まれた方も少なくありません。今号では、四月という節目を迎えることを一緒に考えてみたいと思います。

昨年からきょうされん兵庫の「明日の障害福祉をになう職員研修」の企画や取り組みにかかわらせていただいています。八月からはじまった研修も三月で修了し、二月の研修では「現場でどんなリーダーになりたいか」を講義と受講者の討論で深め、学びました。そのなかに次のようなレポート（二部抜粋）がありました。今回の特集のテーマにも合うので、掲載させていただきます。

もともと小さな音楽出版社で一四年、音楽ディレクターとしてわたしは、働いていました。そこで求められてきたのは、すぐに状況を判断して相手に伝える能力だったと思います。クライアントから意見を求められて、即座に判断できないようでは信用が得られないと、自分にとって厳しい状況で働いてきました。そして評価を



いたでくことで、成長してきたと感じています。

福祉の世界に入り、グループホームでシフトのなかで勤務するようになって、現場で判断してきた経験はもちろん役に立っています。しかし、成果がすぐに見えず、達成感を感じにくい、障害者の支援を職員みんなで分かち合うなかで、はっきりした答えのない議論を行うことが非常によくあります。リーダー的立場になってからは、自分の意見を主張することも大事ですが、みんなから意見を引き出すことにとてもエネルギーがいることがわかってきました。答えがあるわけではないので、意見をまとめることが難しいこともです。結果、意見の重なり合う部分を一致点として決めて実行する、状況が変化すればまた議論する、ということの繰り返しになってきました。劇的な改善はできませんが、数年続けていると、職員一人ひとりの力がついてきたような気がします。能力のある人間を引き立てるのではなく、職員全員で業務のレベルアップを図る場を作っていくことが、今の職場のリーダーとして求められていると感じています。

福祉業界にたどり着くまでに何度か転職しましたが、どこに行ってもすぐに結果を求められて、自分自身、追い詰められていたと思います。今の職場にお世話になって、あとから聞いたことですが、当初は「目つきがすごい」「話しかけにくい」雰囲気だったようです。それが三〜四年ほどたって「雰囲気が柔らかくなった」と声をかけられるようになりました。それは、自分がかんばるといふ肩ひじ張った力が抜けて、集団で仕事をするのが身についてきたからかもしれません。リーダーとして方針を打ち出して決断していくことはもちろん大事なのですが、いろいろな人を巻き込んで、一緒に問題を考えて集団として解決していく、そういう調整能力のあるリーダーになっていきたいと思っています。

今回の特集では、社会福祉のさまざまな分野で働く方々にメッセージを寄せていただきました。

沖縄県公文書館の玄関にニーチェの格言の石碑が建っています。それが実感できる福祉現場にしたいと多くの人たちが願っています。

「汝の立つ所を深く掘れ、其処^{そこ}には泉あり」

(編集主幹)